



SUZUKA  
NATIONAL  
HOSPITAL

# 鈴鹿の風

2009.1  
第5号

「独立行政法人 国立病院機構 鈴鹿病院」ニュース

## <病院理念>

- 私たちは、国民に奉仕する立場から、政策医療である筋ジストロフィー・重症心身障害・神経難病の分野において、患者様本位で質の高い専門医療を提供します。
- 私たちは、充実した医療と健全な経営を心掛け、常に意識改革を怠りません。



## Contents

- 1 ■ ごあいさつ 謹賀新年、独法5年、今年もよろしく
- 2 ■ トピックス 薬局ってどんなところ？
- 3 ■ 看護だより 神経内科病棟(第1病棟)における看護の取り組み
- 4 ■ 療育通信 8病棟療育活動「スヌーズレン」のご紹介
- 5 ■ ニュース 筋ジストロフィー病棟クリスマス会が行われました／川柳大会入賞作品
- 6 ■ 学会報告 総合医学会と筋ジス班会議に出席して
- 7 ■ 外来診察担当表／交通案内／編集後記

## 謹賀新年、独法5年、今年もよろしく

国立病院機構 鈴鹿病院長 小長谷 正明

明けましておめでとうございます。

今年平成21年は、旧国立病院や国立療養所の146病院が一体となって独立行政法人国立病院機構に衣替えしてから、ちょうど5年になる節目の年です。

「国民の目線に立った質の高い医療の提供を」と、医療の質向上のための意識改革と健全な経営をモットーに頑張ってきました。高度な先端医療や急性期医療と並び、国立医療機関の使命として、重症心身障害、筋ジストロフィー、神経難病などの医療が政策として挙げられ、当院もそれに邁進してきました。

この5年間の国立病院機構の業務実績の評価は極めて高く、医療の質、教育、研究、経営、人事等の評価項目はすべて最優秀ないしは優秀でした。独法移行前は、どうせ大して変わらないだろうと言われていましたが、もののみごとに変身できたのです。国の赤字体質そのもののように言われていた国立病院会計も、今や黒字基調となりました。当院でも、経営も入院患者数も順調に推移しています。障害者医療のセーフティ・ネットとして、社会から信頼されているからだと思います。しかし、医療面の充実には更なる意識改革が必要です。

独立法人化していろいろな面が変わりましたが、よかったなと思うことの一つは、病院ごとに独立採算制に近い会計ルールになったことです。独法化前は、いくら当院が努力して黒字を出しても、お金は大蔵省（現財務省）に入り、改めて支給というルールでしたので、大病院や赤字病院に予算が重点的に流れていました。今はいろいろな審査はあるものの、基本的には当院の黒字は当院の整備に使えます。職員の皆さんの努力を、目の前の患者さんの医療や職場の充実に宛うことができるようになりました。ですから、築40年になろうとする老朽病棟を一度に改築できるようになったのです。

給食などのサービス棟は昨年12月に完成し、一足先に稼働していますし、新病棟は今年10月の完成を目指して現在工事が進んでいます。患者さんには安心して心地よい療養環境を、職員の皆さんには清潔で働きやすい職場環境を整えて差し上げることが目前となってきました。我慢はあと一冬、一夏だけです。もちろん、当院の整備プランはこれだけではありません。地域に開かれ、質の高い医療を行える場としての外来診療部門などの充実や、職員のための環境整備を考えていきたいと思えます。

金融恐慌で大変なご時世ですが、いつの時代でも医療を必要とする障害者や患者さんはいます。当院はこれからも、社会のセーフティ・ネットとして歩んでいかなければなりません。

どうぞ今年もこれからも、宜しく願い申し上げます。

## トピックス

### 薬局ってどんなところ？

薬剤科調剤主任 山田 潤

皆さんこんにちは！薬剤科です。一般的には薬局と呼ばれています。皆さんは薬局と聞くとどんなイメージがありますか？くすり屋さん？なにをしてるかよく知らない？いつも待たされる！などいろいろアルかと思いますが、ここ鈴鹿病院の薬剤科についてお話しさせていただきます。薬剤科の人員配置は薬剤科長、調剤主任、薬剤師の3人です。主な仕事は「調剤」ですがその他にも医薬品の品質管理、消毒薬管理、情報管理、病院内での薬の製造、薬歴管理などもしています。

調剤とは…処方せんに基づいて医薬品を調合することですが、飲み合わせの悪い薬や量が多くないか、少なくないかなどをチェックしています。また、患者さんの要望に合わせて一度に複数のお薬を飲めるようにパックにしたり、錠剤を粉にしたり、同じ効果のあるお薬に変更したり、といったことも主治医と相談しながら行っています。

薬剤師として重要な仕事の一つに薬剤情報の提供があります。特に、新たに処方されたお薬の効果や副作用、気を付けていただきたいことなどをお伝えしています。外来の患者さんには月に1度、又は処方が変わったときに薬剤情報提供書をお渡ししておりますの



でご参考になさってください。詳しくは薬剤科窓口にてお尋ねください。飲み方がわからない、飲み忘れてらどうする？などなどご不明なことがあれば、どんなわずかなことでも結構ですのでお声をかけください。

また、当院は院外処方せんの発行も行っております。お気軽にご相談ください。



### 神経内科病棟(第1病棟)における看護の取り組み

1病棟副看護師長 森川 祐子  
同 西川 晶子

1病棟はパーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症、脊髄小脳変性症などの神経難病の患者様が主に入院している病棟です。多くの患者様は、身体の機能が低下し自分の力で動くこ



とが難しく、あらゆる場面で介助を必要としています。看護を提供する上では、患者様の残っている機能を大切に考え、スタッフ間で話し合いを持ちながら個別性を重視した関わりを行なっています。

患者様の疾患の特徴として上肢・下肢の緊張の強さや筋肉の拘縮、振戦等が見られます。このような患者様に対し緊張緩和に向けてポジショニング（正しい姿勢治療）を取り入れています。車椅子乗車時、緊張や拘縮が原因で姿勢が崩れてくることもあるため、車椅子の座椅子マットを工夫したり、その患者様に適したリクライニング（車椅子の角度）の調整を行なったりしています。ベッド上では、リラックスして過して頂けるよう、患

者様個々の体型に合わせて、枕の形や高さの調節を行なっています。また緊張・拘縮の緩和、呼吸状態や嚥下機能にも効果があることから、一日15分「腹臥位」という体位を取り入れ4名の患者様に実施しています。現在、少しずつではありますが効果が現れてきています。

これからも患者様が日常生活を快適に過ごして頂けるよう、スタッフ全員で力を合わせて取り組んでいきたいです。



### 8病棟療育活動「スヌーズレン」のご紹介

保育士 鈴木 みえ  
保育士 今井 寿珠



当院の重症心身障害児・者病棟では、患者様への療育活動としてスヌーズレン・ムーブメント・音楽療法を三本柱として行っています。そこで今回は8病棟のスヌーズレンを紹介します。

8病棟での療育活動のスタイルは、プレイルームで5～6人の患者様を対象に行う「グループ療育」と、呼吸器装着や気管切開など濃厚な医療ケアを必要とするため、ベッドから離れて療育を行うことが難しい患者様を対象に、ベッドサイドで行う「個別療育（超重症児・者個別療育）」があり、スヌーズレンも対象者に合わせてグループ療育と個別療育で行っています。

プレイルームでは、天井や床にLEDライトを巡らせて、バブルチューブやミラーボールなどを組み合わせた美しい光に、スイートオレンジやラベンダーなどのアロマオイルの優しい香りと、オルゴール曲や静かなピアノ曲など心が落ち着く音楽を用いて、ゆったりと心身共にリラックスできる空間をつくるように心がけています。ベッドサイドで行う個別療育はスペースに限りがありますが、なるべく日常の生活環境とは違う、よりリラックスできる空間を患者様と共に楽しめるよう工夫しています。

スヌーズレン体感中の患者様の様子は、穏やかな笑顔が見られたり、身体の緊張が解けてリラックスしたり、心身共に力が抜けてウトウトと眠ってしまう患者様もいれば、LEDライト（触っても熱くありません）に手を伸ばしてつかみ、自分の顔の前に持ってきてじっと見つめている患者様や、普段は手足をせわしく動かし続ける常同行動が見られる患者様が、スヌーズレンの間だけはスタッフが側にいて軽く身体に触れているだけで常同行動がピタリと治まり、その後にスタッフが離れてからも、落ち着いたままじっと光に見入っている様子も見られます。

こうしたスヌーズレン環境の中で、個々の患者様がそれぞれの受け止め方や気持ちの表し方を行い、スタッフ自身も心地良い空間に癒され、患者様一人一人の気持ちに共感できるように心がけながら療育を行っています。





## ニュース

### 筋ジストロフィー病棟クリスマス会が行われました

12月17日の午後に、今年も筋ジストロフィー病棟合同のクリスマス会を行いました。サン幼稚園園児さんによる楽器演奏に始まり、鈴鹿ベイロータリーさんご協力の喫茶コーナーや川柳大会、患者さんによるお笑いコーナーなどを行いました。体調等の都合で会場まで移動できない方には、病棟でハーモニカ演奏を楽しんでいただきました。



その後、鈴鹿市出身で北京パラリンピックに出場し、陸上男子400m(車いす)、800m(同)で金メダルを獲得された伊藤智也選手による講演会を行いました。短い時間ではありましたが、クリスマスの楽しい雰囲気を味わってもらえたことと思います。



### 川柳大会入賞作品

大賞	まだ来るな	閻魔に足で	メール打つ	(高山左千子さん)
院長賞	速さより	住み心地だよ	新病棟	(池田大祐さん)
副院長賞	新築の	やかましけれど	うれしかな	(井上宗郎さん)
総看護師長賞	伝の心	希望パソコン	開命花(かいめいか)	(島村徹さん)
事務長賞	音楽が	心を癒す	希望の音	(吉井寛真さん)

# 学会報告

## 総合医学会と筋ジス班会議に出席して

児童指導員 横山 尚子

11月21日・22日に第62回国立病院総合医学会、12月1日・2日に厚生労働省精神・神経疾患研究委託費「筋ジストロフィーの集学的治療と均てん化に関する研究」平成20年度班会議が開かれました。私は両日とも早朝の新幹線で向かい、発表をするという緊張感で一杯の中、雲ひとつないすっきりとした富士山が見えたのを覚えています。



総合医学会の会場は東京の国際フォーラムというとても広く、芸術的な建物でした。鈴鹿病院は発表者が多く、堂々とした様子で発表し意見交換をしていました。シンポジウムもいくつか行われており、その中でも「筋ジストロフィー医療の将来展望」というシンポジウムは未来に希望が持てるような講義でとても印象的でした。

筋ジス班会議も東京で行われ、場所は渋谷や東大に近いこまばエミナースという会場でした。私は初めて出席させていただきました。筋ジス病棟に勤務して2年目ということもあり、刺激が多く、新鮮さを感じ、今後の業務の参考になるものが多くありました。

これらの学会は、普段私たちの行っている業務について発表をする場であり、また他の施設の発表を聞く事ができるため、私達の業務を見直すことができる場でもあり、大切な場であると思います。私にとって、今回の出席は勉強になることが多く、今後の業務に活かして行きたいと思います。



## 外来診察担当表 (2009年1月1日 現在)

	月	火	水	木	金
神 経 内 科	小 長 谷	酒 井	田 村	小 長 谷	久 留
内 科 (循 環 器 科)	奥 村 (循 環 器)	木 村	安 間 (循 環 器)	安 間 (循 環 器)	野 口
小 児 科	予 約	予 約	予 約	予 約	予 約
整 形 外 科		田 中 午後(装具)			田 中
リハビリテーション科					田 中
歯 科	坪 井		松 村	鈴 木	
皮 膚 科		武 市			

- ◆ 外来受付は8:30~11:00、診療開始は9:00~です。
- ◆ 歯科は身体障害者の方に限ります。
- ◆ 装具外来は火曜日の午後1:30から整形外科で受付いたします(あらかじめ電話予約のうえお越し下さい)。
- ◆ 小児科外来は担当医とご相談のうえ、ご予約下さい。
- ◆ 土曜日、日曜日、祝祭日は休診とします。



### 交通案内

- ◆ JR「加佐登」駅より徒歩8分
- ◆ 東名阪「鈴鹿」I.C.より車8分
- ◆ 近鉄「平田町」駅よりタクシー15分
- ◆ 三交バス(荒神山口行き/椿大神社行き)「加佐登神社前」下車すぐ
- ◆ 鈴鹿市西部地域コミュニティバス 椿・平田線「26加佐登神社」下車すぐ

## 看護師募集

ぬくもりと安心の看護の提供を  
一緒にしてみませんか!

即、お電話を! 随時受け付けています。  
(看護課)

### ◆ 発行

平成21年1月  
独立行政法人 国立病院機構 鈴鹿病院  
〒513-8501  
三重県鈴鹿市加佐登3丁目2番1号  
Tel. 059-378-1321(代)  
Fax. 059-378-7083  
<http://www.hosp.go.jp/~suzukaww/>

### 編集後記

昨年末から病棟新築工事が開始され、あわただしく新年を迎えることとなりました。本年度は新病棟が完成し、大きく環境も変化することと思いますが、私たちは今後も皆様によるこんでいただける「鈴鹿の風」と医療・看護を提供していきたいと思っています。

(仲野里美)

